

平成 21 年度「防災隣組」育成促進モデル事業

地域における防災力向上のための組織づくり

情報・ヒント集



平成 22 年 3 月

内 閣 府

平成 21 年度「防災隣組」育成促進モデル事業の目的

災害に対する安全・安心を確保するためには、行政による災害対策を強化し「公助」を充実させていくことはもとより、国民一人一人や企業等が自ら取り組む「自助」、地域の人々や企業・団体が力を合わせて助け合う「共助」の取組み、更にはこれらの連携が不可欠です。

これらの展開においては、国民一人一人の防災意識の向上、家庭や職場における備えの実践、更には地域コミュニティ等の防災力の向上という視点に着目して行うことが必要です。そして、家具や備品の固定、食料や水の備蓄といった災害対策のみならず、住宅・建築物の耐震化、ハザードマップの確認、企業の事業継続計画（BCP）の策定、防災ボランティアの活動環境の整備、商店街やNPO等の活動による防災に強いまちづくり等の具体的な行動の実践を、社会の各界各層に向けこれまで以上に広く呼びかけるとともに、新たな手法を開発していく必要があります。

政府においては、新たに「災害被害を軽減する国民運動」の基本方針を立案し、当該方針の下で各界各層の防災に関する取組みを連携させて展開していくために、平成 17 年 7 月、中央防災会議に「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する専門調査会」を設置し、各地域における先進的な取組みを参考にしながら議論を進め、平成 18 年 4 月 21 日第 17 回中央防災会議において「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する基本方針」として決定されました。

今後の展開としては、個人や家庭、地域、企業、団体等において、家具や備品の固定、ガラスの飛散防止、建物の耐震診断と必要な補強、ハザードマップの確認、家族の安否の確認方法の共有といった災害による被害を減らすための具体的な行動に着手し、更にそのような行動が日常的に行われるよう、この基本方針を基に、幅広い層が連携・参加し、また自らの身の回りの安全について考える機会となる取組みを推進する必要があります。

内閣府では、当該専門調査会終了後、国民運動の現状を把握し、それを踏まえて今後における国民運動のあり方・具体的な方策について検討するため、有識者を中心とした「災害被害を軽減する国民運動に関する懇談会」を開催しました。同懇談会では、国民運動の具体的な課題についての検討を経て、平成 21 年 3 月に「災害被害を軽減する国民運動の今後の方向性について」をとりまとめました。内閣府では以後それに基づき、枠組みの活性化やコンテンツの充実など、国民運動の個別の課題について推進を図っていく予定です。

本事業は、国民運動の普及・啓発への取組みの一つとして、「街」が直面する様々なリスクに対し、地域の防災力を向上させるためには、地域防災の担い手同士が顔の見える密接な関係のネットワーク作りが不可欠である中、商店街などの地域における企業や地域コミュニティが「共助」という理念の下に有志が集まり、知見を出し合い実践的な活動を展開する「隣組」活動を継続的に推進する枠組みを作り、全国の駅前や商店街、業務街区等に掲げるためのモデル地区を選定・ワークショップを実施するモデル事業を実施することを目的としました。

※ 防災隣組とは 商店街などの地域における企業や地域コミュニティが、防災活動に「共助」の精神で集い、お互いに知見を出し合い、連携して実践的な活動を展開する組織のこと

事業実施地区（目次）

本事業では、地域防災における隣組活動の連携支援のため、自ら減災活動の実践に意欲のある地域を全国から以下の10箇所選定しました。なお、当該地区における駅前や商店街、業務街区など多様な主体に参加を呼びかけるに際し、住宅街等を含めて選定しました。

	ページ	地区名	地区特性	実施したワークショップ等の内容
①	3	千葉県流山市 新市街地地区（流山 おおたかの森）	新市街地	流山新市街地地区の安全・安心まちづくり協議会を中心に、被災時の行動等を想像するワークショップを実施
②	5	千葉県八千代市 高津団地地区	団地	高津団地自治会役員等により、団地内のこれまでの防災の取り組みに関する意識の共有化や継続的な活動に向けて考えるワークショップを実施
③	7	東京都千代田区 四ッ谷駅周辺地区	オフィス街	四ッ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力が、大地震時に想定される帰宅困難者に対して地域内の企業として支援できることや企業の連携についての意見交換会を実施
④	9	東京都葛飾区 四つ木地区①	密集市街地	四つ木地区周辺町会が、大地震後の避難所の立ち上げに関する訓練を行い、実施後、訓練を振り返り有識者による講演会を実施
⑤	11	東京都葛飾区 四つ木地区②	密集市街地	地区の様々な団体が集う四つ木地区センターまつりに防災展示ブースを出展
⑥	13	長野県佐久市 岩村田本町地区	中心商店街	岩村田本町商店街が中心となり、災害図上訓練 DIG と、災害時にも頼れる商店街をめざして求められる役割等について話し合うワークショップを実施
⑦	15	大阪府茨木市 東小学校区	戸建て住宅 ・団地等	茨木市東小学校区自主防災会が主催する防災訓練において、災害図上訓練 DIG と内閣府防災シミュレーターのデモンストレーションを実施
⑧	17	大阪府東大阪市 長瀬東校区	戸建て住宅 ・集合住宅	長瀬東校区自治連合会・自主防災会が中心となって災害図上訓練 DIG と防災の取り組み主体と内容について話し合うワークショップを実施
⑨	19	愛媛県松山市 大街道地区	中心商店街	お城下まつやまが中心となって、商店街での社会貢献活動の一環として、防災展示ブースを出展
⑩	21	高知県南国市 白木谷小学校区	山間集落	白木谷自治会が中心となって、南国市役所、有識者と連携しながら、土砂災害を学び、危険地域を歩いて確認しながら、土砂災害時の住民としての役割を考えるワークショップを実施

1 千葉県流山市新市街地地区(流山おおたかの森)

活動

流山新市街地地区の安心・安全まちづくり協議会を中心に、地元自治会、大学等が参加して被災時の行動等を想像するワークショップを実施。

地区の概要

本地区は、つくばエクスプレスの流山おおたかの森駅の周辺に土地区画整理事業で整備中の新市街地地区です。

本地区では、防犯、子育て、防災などを主なテーマとし、大学、市民グループ、地権者、警備業協会、鉄道事業者などの地元関係者が流山市、流山警察署、UR都市機構の協力支援のもとに、安心・安全まちづくり協議会が設置され、同時に学識経験者や関係機関代表によるサポーター会議（安心・安全まちづくり連絡会議）も設けられています。

活動までの土台づくり

本地区における既存組織「流山新市街地地区安心・安全まちづくり協議会」は、地元住民、市民グループ、事業者、大学など複数の組織が連携して取り組みを行っていることから「防災隣組」としての活動に関わりうる組織です。

本事業では、当該組織を母体として、防災についても地区住民及び事業者、地域の大学の学生などの参加を加え、意識を共有して、自助、共助の意識を高めることを目的としてワークショップを行いました。



活動の様子

◆ワークショップ



◆発表会



活動のヒント

- ★防災ではないテーマで既に活動している有識者や住民による協議会等に対し、防災という共通のテーマで、自助、共助、公助に関する日常的な取組みを行うきっかけ作りを行うことが有効です。
- ★中心となる既存組織から、徐々に他の組織との連携を増やしていくことにより、多面的な「防災隣組」活動へ醸成することができます。
- ★災害時の状況などを映像で見せ、災害時における身近な被害を考えて書き出し、議論することにより、臨場感を持って災害に対する意識を持つことができます。

2 千葉県八千代市高津団地地区

活動

高津団地自治会役員等により、団地内のこれまでの防災の取り組みに関する意識の共有化や継続的な活動に向けて考えるワークショップを実施。

地区の概要

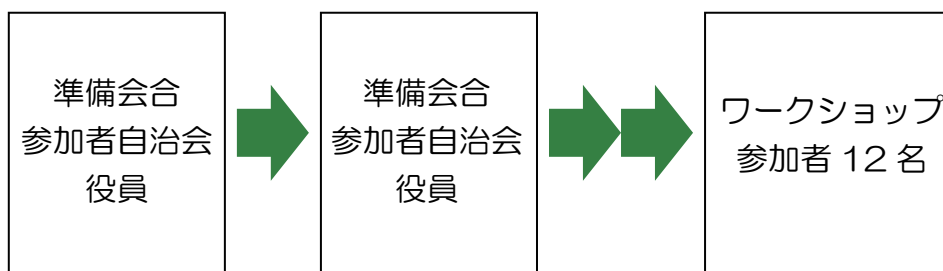
八千代市は、江戸時代には成田と江戸を結ぶ成田街道の宿場町として栄え、昭和42年の市制施行以来、首都圏でも有数のベッドタウンとして成長してきました。八千代市高津団地は、市内にある5つの大規模団地（八千代台、勝田台、米本、高津、村上）のうちの一つであり、昭和48年5月から入居が始まっています。

当該自治会は、賃貸や分譲も含め約4,200世帯が入居しており、団地内には防災組織があり、さらに市内の多様な組織等と連携した防災会議が結成され、毎年度防災訓練を行っています。

活動までの土台づくり

当団地は5つの街区に区分されており、それぞれが自主的に防災会が結成されており、おのこの自主的に活動しています。

「防災隣組」の育成促進に際しては、各街区の防災会の連携を図るとともに、自治会を中心に小中学校や、福祉士会や子供にかかわる児童員や児童館管理指導員と幅広いメンバーを収集することで、各組織の活動を越えた防災に対する取組み等における問題や課題、その対応策等のワークショップを行うことで、問題意識の共有や他の組織との連携の重要性を認識し、今後の活動につなげていくことを目的に行いました。

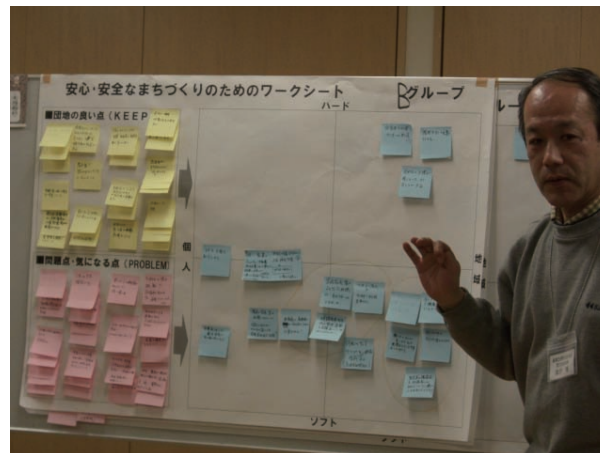


活動の様子

◆ワークショップ



◆発表会



活動のヒント

- ★既に種々活動している防災組織を活用しつつ、団地内で防災とは直接関係しない活動を行っている諸団体との連携を深めることで、多面的な課題に対応できる「防災隣組」の育成が可能となります。
- ★大規模団地での活動に際しては、災害時要援護者である高齢者や障害を有する人、子どもなどの安全性をいかに確保するかが重要な課題となります。
- ★防災訓練などの参加者を増やすためには、日頃からのコミュニケーションが重要です。

3 東京都千代田区四ッ谷駅周辺地区

活動

四ッ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力が、大地震時に想定される帰宅困難者に対して地域内の企業として支援できることや企業の連携についての意見交換会を実施。

地区の概要

東京都千代田区四ッ谷駅周辺地区は、千代田区の北西部に位置するオフィス地区、住宅地区等です。地域企業・団体に対して「帰宅困難者対策地域協力が」を立ち上げています。

これまでには、区が主催する総合防災訓練（帰宅困難者避難訓練）に参画しており、駅前の混乱防止、帰宅困難者支援場所の開設、徒歩帰宅訓練参加者への給食活動の訓練等を行っています。

活動までの土台づくり

「四ッ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力が」は、平成 18 年度に設立され、民間企業・団体・大学・大使館等の 17 組織が加入・活動しています。区内には「東京駅・有楽町駅周辺地区」、「富士見・飯田橋駅周辺地区」「秋葉原駅周辺地区」の計 4 地区で同様の活動組織があり、それぞれの連携にも努めています。

「四ッ谷駅周辺地区帰宅困難者対策地域協力が」は、企業・団体等による共助を目的、設立から約 3 年間活動しており、本事業では「防災隣組の活動を展開している地区」であると位置づけられます。



活動の様子

◆帰宅困難者避難訓練



◆意見交換会



活動のヒント

- ★ 駅周辺の企業・団体等が協力して、帰宅困難者避難訓練を行うことで、地震等の災害時に発生する帰宅困難者に対して有効な対応が期待できます。
- ★ 企業・団体がそれぞれで所有している既存の情報ネットワークを活用することで、寸時に多くの情報を集約することが可能です。
- ★ 普段活動と一緒にすることが少ない企業・団体が、防災訓練を通じて顔見知りになっておくことが必要です。

4 東京都葛飾区四つ木地区①

活動

四つ木地区の町会が、大地震後の避難所の立ち上げに関する訓練を行い、実施後、訓練を振り返り有識者による講演会を実施。

地区の概要

東京都葛飾区四つ木地区は、東京都防災都市づくり推進計画による重点整備地区、東京都住宅マスタープランにおける重点供給地域および特定促進地区に位置づけられています。また、地区に隣接する東四つ木四丁目については、国の「地震時等において大規模な火災の危険性があり重点的に改善すべき密集市街地」に指定されています。

そのため、平成10年度から防災まちづくりへの重点的な取り組みが行われています。

活動までの土台づくり

四つ木地区連合町会は、これまでも自主的な防災活動を実践していますが、防災活動には町会だけでなく、地域内の多様な団体が連携しています。

そこで、「防災隣組」の育成促進に際しては、よつぎ小学校および避難場所に指定された4町会（西町会、中町会、若宮町会、四つ木町会）が独自に実施を予定していた避難所運営訓練の機会を活用し、「防災隣組」の意識の醸成をさらに促す取り組みとして、防災・減災講演会を実施しました。



活動の様子

◆避難所運営訓練



◆防災講演会



活動のヒント

- ★災害時に避難所生活を共にする町会役員、地区住民、避難所である小学校職員が参加することにより、「防災隣組」として活動する実行的な組織となることが期待できます。
- ★実働訓練＋専門家による訓練の振り返り講義が「防災隣組」普及啓発の1パターンとなります。
- ★地域の様々な主体の参画による避難所運営訓練に加え、訓練を振り返る形での専門家による講義により、お互いの役割意識が明確になり、今後自主的な「防災隣組」としての活動への発展が期待できます。

5 東京都葛飾区四つ木地区②

活動

地区の様々な団体が集う四つ木地区センターまつりに防災展示ブースを出展。

地区の概要

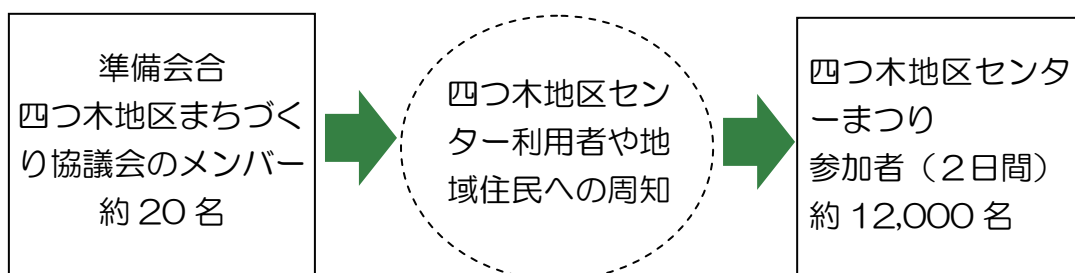
東京都葛飾区四つ木地区は、東京都防災都市づくり推進計画による重点整備地区、東京都住宅マスタープランにおける重点供給地域および特定促進地区に位置づけられています。また、四つ木地区においては、まちづくり協議会など、防災に対する取組を行う複数の組織があり、継続的に活動を行っています。

四つ木地区センターは、四つ木地区の7町会による連合町会が利用しており、地元の各種団体活動を展開されている施設であり、地域の交流・連携を図るために、毎年地区センターまつりを実施しています。

活動までの土台づくり

行政による防災まちづくりが進められてきた地区であり、地域住民によるまちづくり協議会が定期的に啓発活動等を実施しており、「防災隣組」母体として期待できます。

四つ木地区センターは、防災に係らない団体活動の場所であり、活動発表の機会である四つ木地区センターまつりは多くの人が集う機会、「防災隣組」育成に関する普及啓発を行う絶好の機会となりました。



活動の様子

◆ 1日目の様子



◆ 2日目の様子



活動のヒント

- ★多くの人、団体が利用する地区センターのイベントに参加することにより、防災知識について広く周知啓発を行うことができます。
- ★防災クイズ等を実施することにより、防災に興味を持ち、また気軽に「防災」に関する知識が得られる効果があります。
- ★地区センターを利用する連合町会が主体となることで、各町会役員や地域住民だけではなく、地区センターを利用する各種活動団体との連携が円滑に行えます。

6 長野県佐久市岩村田本町地区

活動

岩村田本町商店街が中心となり、災害図上訓練 DIG と、災害時にも頼れる商店街をめざして求められる役割等について話し合うワークショップを実施。

地区の概要

本地区は、長野県佐久市の中心市街地にあります。中山道と佐久甲州街道が交差する位置にあり、古くからの街道沿いの宿場町として商業が隆盛を極めていました。

昭和40年には防災街区に指定され、長屋であった南北220メートルの商店街を3階建ての鉄筋コンクリートの建物に建て替えましたが、今や老朽化は進んでいます。

平成9年10月の長野新幹線佐久平駅開業に伴う、郊外型大型店の進出で町の勢いは一旦、衰えましたが、現在は商店街を挙げて活性化に取り組み、少子高齢化への対策、安全・安心のまちづくりを進め、地域コミュニティの再生など、さまざまな事業を地域の皆さんの協力のもとで進めています。

活動までの土台づくり

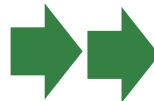
近年、地域の高齢化も進んでおり災害時の高齢者の避難の問題や、小中学校区が広範囲なため、通学時の安全確保に対する関心も高まりつつあります。

そのような中で、地区の中心に位置する商店街において、「災害時でも頼れる商店街」をめざした防災マップづくりワークショップを実施するきっかけをいただきました。これをきっかけとして、住民が地域の防災に目を向け、地域ごと、団体ごとに問題点を持ち寄って準備会合に臨みました。

準備会合準備
参加者は商店街
街役員の6名



準備会合
参加者は商店街、
PTA、消防団の
役員等の13名



防災マップづく
ワークショップ
参加者は計40名

活動の様子

◆防災マップづくり



◆防災ワークショップ



活動のヒント

- ★日頃から多くの人が集まる商店街は、人および情報のネットワークを築きつつある。この既存のネットワークを活用し、迅速かつ効率的な対応が可能です。
- ★防災マップの作成にあたって、災害に備えた資機材や物品等を販売する店舗の位置を明記するなど、商店街活動にも有益な取組みを実施しました。このような継続的な取組に向けた工夫が必要です。
- ★若手中心の会では、自主的、かつ、機動的な活動組織として育成が期待できますが、災害時要援護者の情報の把握等に課題を生じることがあるので、参加者の年代は幅広くするなどバランスを考慮することが重要です。

7 大阪府茨木市東小学校区

活動

茨木市東小学校区自主防災会が主催する防災訓練において、実働形式の訓練に加え、災害図上訓練 DIG と内閣府「防災シミュレーター」のデモンストレーションを実施し、地域における顔の見える関係づくりと家庭での防災の取り組みを促進。

地区の概要

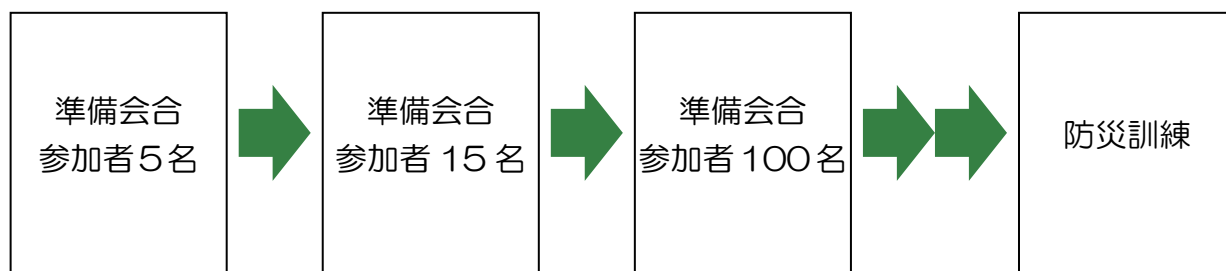
大阪府茨木市東小学校区は、安威川の東に広がる低平な地区に位置する既成市街地です。かつては田園地帯でしたが、現在は戸建ての他、団地、アパート等の住宅が大半を占めています。

現在は、校区内の 12 自治会のほか、各種団体（敬老会、少年野球チーム、民生委員等）からなる「茨木市東小学校区自主防災会」が結成されています。同自主防災会では、毎年度、震災対策及び水害対策に関する実働訓練を実施しています。

活動までの土台づくり

「防災隣組」の育成促進に当たり、自主防災会が独自に実施を予定していた防災訓練の機会を活用し、「防災隣組」の意識の醸成をさらに促す取り組みとして、災害図上訓練 DIG を実施することとしました。また、各家庭等での防災活動の取り組みの促進を図るために、内閣府防災シミュレーターの実演を合わせて実施することとしました。

本事業では、同自主防災会による準備会合を3回行い、本事業の意義の理解を地区住民に徐々に浸透させながら、防災訓練を実施しました。

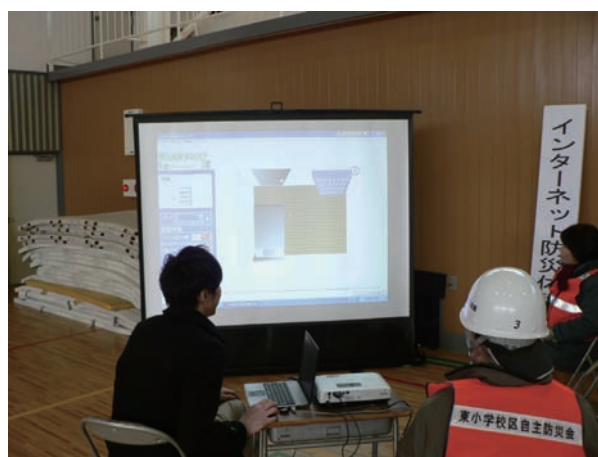


活動の様子

◆災害図上訓練 DIG



◆インターネット防災体験訓練(内閣府防災シミュレーターの実演)



活動のヒント

- ★既に日程が決まり地域に周知されている機会（防災訓練）を活用し、魅力的なメニューを提案することで多くの人々の参画を促します。
- ★例えば、応急対策の実働訓練が計画されている場合、自らの減災意欲や、人々の顔の見える関係づくり等の気づきをもたらすことのできるメニュー（災害図上訓練 DIG 等）を追加し、内容の充実を図ります。
- ★内容の企画検討に際しては、準備会合を重ねて熟度を徐々に高める工夫が必要です。

8 大阪府東大阪市長瀬東校区

活動

長瀬東校区自治連合会・自主防災会が中心となって災害図上訓練 DIG と防災の取組主体と内容について話し合うワークショップを実施。

地区の概要

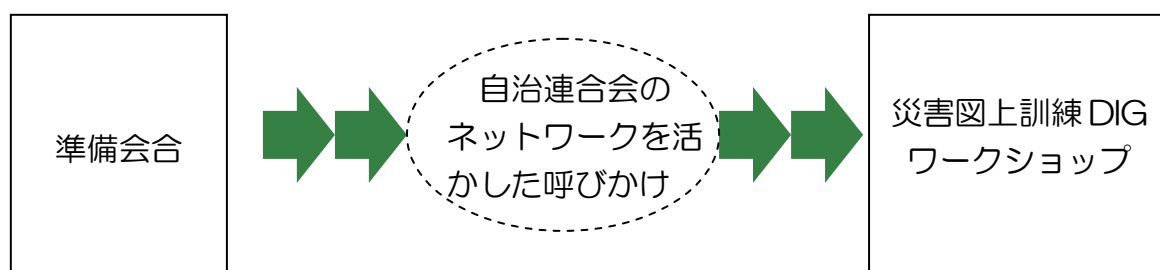
大阪府東大阪市長瀬東校区は、東大阪市の南西端に位置し、近鉄大阪線、府道 173 号線（八尾街道）に挟まれた既成市街地です。校区内には金岡公園、長瀬東小学校等の防災施設がありますが、幅員が狭い道路や建築年代が比較的古い住宅等も見られます。

同校区は6自治会のほか、福祉委員会、防犯委員会、民生委員会、公民館運営委員会、自主防災会、老人会、子供会、各種団体等との連携により校区連合自治会を構築し、小地域の大きなネットワークとして様々な活動に対して活発な地域です。防災関係においても独自に高齢者防災マップの作成等を行っています。

活動までの土台づくり

「防災隣組」の育成促進に当たり、本事業では、同地区における6自治会の連合体である「長瀬東校区自治連合会」が、自主防災会と連携し、地域における人々のつながりを防災の面から再確認する目的で、準備会合1回を踏まえ、災害図上訓練 DIG とワークショップを実施しました。

ワークショップ参加者の呼びかけにあたっては、連合自治会のネットワークを有効活用し、短期間で多くの人々の協力を得ることができました。



活動の様子

◆災害図上訓練 DIG



◆ワークショップ



活動のヒント

- ★単一自治会では人的資源、財源等の面で活動が困難な場合でも、地域内の多様な団体が連携することにより、様々なまちづくり活動が円滑かつ活発に開催できます。
- ★同じテーマのワークショップや災害図上訓練 DIG を複数のテーブルに分かれて実施することで、各地区の熟度に応じテーブル同士で教え合い、連携しようとする効果が期待できます。

9 愛媛県松山市大街道地区

活動

「お城下まつやま」が中心となって、商店街での社会貢献活動の一環として、防災展示ブースを出展。

地区の概要

愛媛県松山市大街道地区は、中心商業地です。中でも、大街道商店街は、隣接する銀天街とならび、市内随一の中心商店街を形成しています。

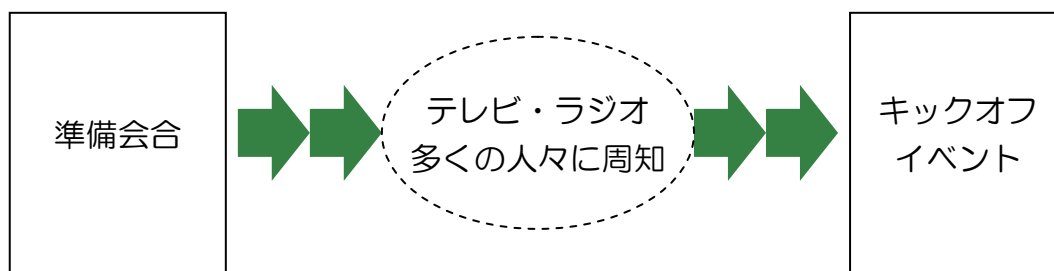
「お城下まつやま」は、かつて「お城下」と呼ばれた松山市中心部の活性化を目指して、中心部の各商店街振興組合、2百貨店をはじめとした中心市街地の10団体が協力して現状を打開しようと設立された組織で、現在は一般企業を含め約20団体が加盟しています。

地域の活性化を目指して、商店街等でセールや写真展示等の様々なイベントを実施しています。

活動までの土台づくり

地域活性化イベントとしてすでに企画されていた「キックオフイベント」の中に、社会貢献活動として、不特定多数の来街者に対して防災の取組の必要性を広くアピールする場として実施することとしました。

なお、当日は、他の取組として、商店街内の清掃活動や、地元社会福祉施設での手作り商品の販売会、衣類のリサイクルの販売会等もあわせて実施し相乗効果を高めることとしました。また、テレビ・ラジオ番組を活用し、事前に多くの人々に周知しました。



活動の様子

◆「防災隣組」のPR活動



◆同時に開催され相乗効果をもたらしたその他の社会貢献活動イベント



活動のヒント

- ★既に日程が決まっているイベント機会を活用し、イベントの一つとして防災活動を盛り込むことが有効です。
- ★地域の活性化のために、防災に取り組んでいるという姿勢を来街者に情報発信することは重要な取り組みです。
- ★不特定多数の人々を対象にする際には、一種の「PR活動イベント」を行うことは、防災に取り組む初歩として手軽なアイデアです。
- ★テレビ、ラジオ等を活用した事前周知により集客効果が見込まれます。

10 高知県南国市白木谷小学校区

活動

白木谷自治会が中心となって、南国市役所、有識者と連携しながら、土砂災害を学び、危険地域を歩いて確認しながら、土砂災害時の住民としての役割を考えるワークショップを実施。

地区の概要

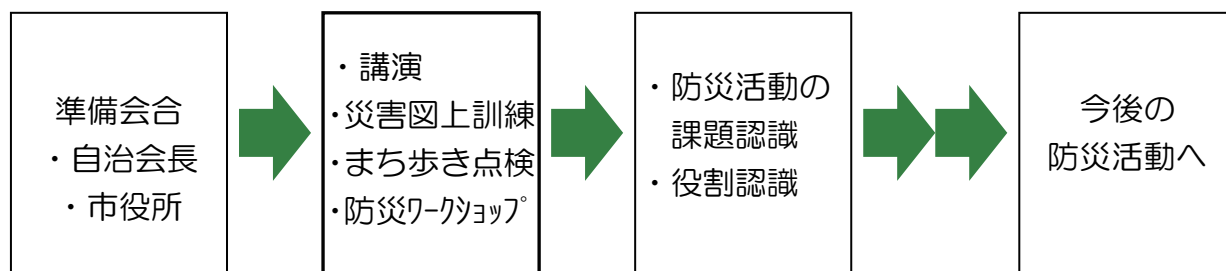
高知県南国市白木谷校区は、南国市の北部の山間地で、南国インターチェンジ南部より白木谷川沿いに広がる山間集落地で、谷あい集落で避難がしづらい地域であるとともに、県が指定する土砂災害警戒区域がほとんどの集落にかかっている現状があります。

同校区では、自主防災組織の結成がされ、防災倉庫の設置や防災訓練の実施などがされているとともに、文部科学省の「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」を実施し、小学校を中心とした地域での防災への取り組みを進めています。

活動までの土台づくり

自主防災会での取組や「地域ぐるみの学校安全推進モデル事業」の実施などが進められていますが、地域全体での防災活動への取り組みに展開していく必要があり、「防災隣組」の育成促進とあわせて、災害図上訓練 DIG とまち歩きなどを実施することとしました。

本事業では、多くの参加者が得られ、上記の取り組みで地域の現状を再認識する場を設けるとともに、防災に関する意見交換をする場を持つことで、今後の防災活動への課題の洗い出しと、役割の認識ができました。

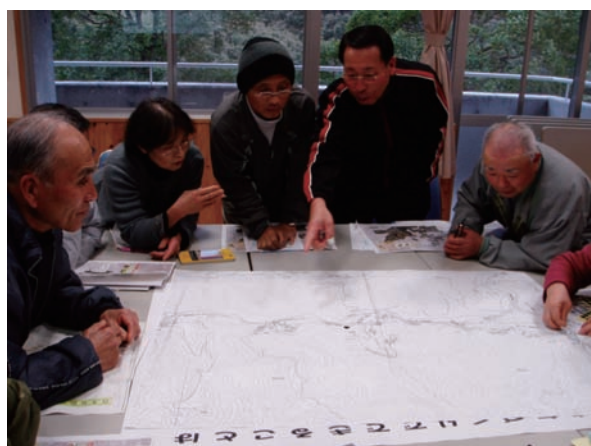


活動の様子

◆有識者によるレクチャー



◆災害図上訓練 DIG



◆土砂災害警戒区域のまち歩き



◆自主的な活動に向けた意見交換



活動のヒント

- ★身近に迫る災害リスクながら地域の人々の理解が途上であると見込まれる場合、週末などにまとまった時間を取り、「一気に意識を広める」機会を設ける工夫が考えられます。
- ★地図上での危険性の理解と、まち歩きによる理解を組み合わせ、理解を深めることが重要です。
- ★有識者のコーディネートにより、専門的見地から自分のまちを解説してもらうことも重要です。
- ★防災活動で役割分担を考えることで、“自分”の行動を意識し、自助・共助の実践的な行動を意識してもらうことが重要です。

まとめ ～「防災隣組」の育成促進に向けて～

本事業は、各地区での準備会合、及びワークショップ等の機会を通じて、実施団体・参加者に「防災隣組」の趣旨と必要性を啓発してきました。その結果、地区特性やこれまでの防災活動の活発さ等により、異なる成果や、他の地区で参考となる様々な情報・ヒントを得ることができました。ここでは、まとめとして、「防災隣組」の育成促進に向けて、「人の輪づくり」及び「活動のきっかけづくり」の視点から、10 の情報・ヒントをまとめました。みなさんの地区でも、活動のヒントとして役立ててください。

<人の輪をつくる情報・ヒント>

- (1) 既存の住民組織・まちづくり組織を活用して、他の主体を巻き込むことが重要です。
- (2) 地域の特性・役割を有効活用して人の輪を広げることが必要です。
- (3) 単一では小さなコミュニティでも、連携することにより大きなネットワークが得られます。
- (4) オフィス街の企業・事業所においても、住宅街の町内会・自治会と同様に人のつながりが重要です。

<活動のきっかけをつくる情報・ヒント>

- (5) 多様な世代が集まる機会（お祭り等）を活用し、防災の要素を加えて情報発信することは有効な取り組みです。
- (6) 地域住民の日頃の行動を防災活動にも活かす工夫を仕掛けることが重要です。
- (7) 防災活動を地域の活性化に活用することが必要です。
- (8) 当初から予定されている防災活動の機会に、簡単な出し物や有識者の招聘など中身を充実させた内容とすることが有効です。
- (9) じっくりと学び、考える機会をまとまった時間として新たに設ける努力も必要です。
- (10) 活動に当たっては、事前の周知が必要で、熟度を高めた上で行うことが重要です。

平成 21 年度「防災隣組」育成促進モデル事業

地域における防災力向上のための組織づくり
情報・ヒント集

平成 22 年 3 月

発行：内閣府（防災担当）

編集協力：ランドブレイン株式会社